

有限会社 平田ラジオ



■家電デジタル：家電製品販売(エディオンFC)
 ■環境：オール電化・太陽光発電システム
 ■工事施工：電気・空調工事・CATV共働工事
 住宅リフォーム

営業時間：月曜日～土曜日 9:00～19:00
 〒677-0022 兵庫県西脇市寺内37-4 TEL.0795-22-5588

西脇市農産物直売所 にはりま旬菜館

西脇市野村町800-1
 AM9:30～PM18:00
 TEL. 24-7900
 FAX. 24-7910
 駐車100台



巻き寿司ほか
 手作り加工品
 も人気です

出荷農家は
 300人!

年始を除く
 休日なし

和味深心 KU YASUKE

昼 1,000円～*11時～14時
 夜 1,000円～*17時～22時
 *料理おさめは21時30分とさせていただきます *予約優先・不定休

夏は「うなぎ」で精つけて

うなぎ重 並(三分の一匹)	1,250円
上(二分の一匹)	2,250円
特上(一匹)	3,250円
うなぎ蒲焼き	850円
うなぎ白焼き	850円

0795-22-4817
 西脇市和布町188-4
 (来住邸より南へ800m)

来住邸ギャラリー 作品展の予定

染織 平谷悠津子
 木工 永瀬浩之
 つるクラフト 永瀬水晴
 クラフト三人展
 7月2日(木)～14日(火)
 来住邸お知らせ 検索

西脇市制10周年記念 来住邸特別企画I

多可町制10周年記念
 来住邸特別企画I

7月16日(木)～31日(金)
 作家 ことりみねのら
 書家 藤原公志郎

西脇市制10周年記念 来住邸特別企画II

小松原ケンスケ企画制作
 西脇アートフェスティバル2015
 8月2日(日)～30日(日)

西脇市制10周年記念 来住邸特別企画III

村上しほ子
 戦時人形展
 9月2日(木)～29日(火)

播州織工房 hatsutoki (ハツトキ)

5月2日(土)～10日(日)
 hatsutokiファンをはじめ、たくさんの方にご来店いただき、播州織の広まりを感じました。(まる)

西脇市制10周年記念 来住邸特別企画IV

西脇アートフェスティバル2015
 8月2日(日)～30日(日)

西脇市制10周年記念 来住邸特別企画V

西脇アートフェスティバル2015
 8月2日(日)～30日(日)

三人展

流水アート 日吉伸也
 草木染 小西康博
 陶器 長濱晋介
 4月1日(水)～12日(日)

川からドンブラコと流れ着いたお鍋のフタを、きれいに磨いて作った作品です。

自分が造った好きな器で、酒が飲みたい!...と、陶芸をはじめられたそうですよ。

播州織工房 hatsutoki (ハツトキ)

5月2日(土)～10日(日)
 hatsutokiファンをはじめ、たくさんの方にご来店いただき、播州織の広まりを感じました。(まる)

トライやるウィーク

6月2日(火)～6日(土)
 黒田庄中学校から3人の生徒さんが仕事を体験。また来てね～!

おしごと体験

6月16日(火)～19日(金)
 県立北はりま特別支援学校の辻野くんが仕事を体験。こちらも働き者です!

西脇北高から花を頂きました

5月29日(金)
 生徒さんが大切に育てたお花に癒やされています。

Photo File

2015年3月～6月
 一部ではありますが、西脇TMOの活動を記録写真でご紹介します。

小林信治 水彩画展

3月18日(水)～31日(火)
 教師時代は子どもに絵を教える名人としても尊敬を集めた小林さん。(は)

木創人 河野好文展

4月15日(水)～30日(木)
 河野さんは、日本で最後の足踏み式の木工ろくろを使える木地師という職人さん。多数の受賞作品が並びました。(かぶたっく)

第3回 藤井千誠 植物画作品展

5月2日(土)～14日(木)
 驚くほど細密な植物画。今回は植物だけでなく昆虫も登場!(かぶたっく)

第23回 酒井義己 水彩画展

6月2日(火)～14日(日)
 酒井さんの作品は、全て修正なしの一発描き。訪れた方は描かれた建物や路地がもつ物語について、酒井さんから直接説明を受けておられました。(P)

奥野の太兵衛

野村町 広報委員長 藤原和義

第八話 たった井の話

この国の人口は超長期的に見ると緩やかな右肩上がりで推移しているが、歴史上二度、爆発的に人口が増えたことがある。元和偃武の後と明治維新後である。いずれも理由は明白で、戦乱動乱が収まり泰平の世になり安心して子どもを産み育てられる時代になったからである。となると、人口が減少に転じたのは今この時代は泰平の世とはいえないのかもしれない。

それはさておき、前者の、江戸時代の初期の話である。急激な人口増に伴う難題は食糧の増産である。幕府も各藩もこぞって言わば国策として新田開発を奨励した。新田開発には大きく二つあり、「町人請負新田」と「村請新田」で、先のは大都会の商人の請負で、今で言えば大資本の参入、後ののは地元農民たちが資金と労力を出し合って共同開発である。この辺りというところ平野新田や塚口新田が前者にあたり、浪速の平野屋、塚口屋という豪商が開発したもので、屋号がそのまま地名として残っている。

わが野村町の奥野新田は村請で、太兵衛という男が中心となって開発が進められた。奥野は野村の一小字で、野村の奥の謂である。太兵衛は今でいう起業家で余程才覚と行動力があった男に違いない。単身江戸へ上り二百五十町歩の開発を申請し許可された。このうち十三町歩の荒蕪の原野を三年の歳月を費やして田畑に変えた。驚くべき男である。最初の入植者は八軒だった。めでたしめでたし……と言いたいところだが、そうはならなかった。開発の完成を待っていたかのように五人の村役を先頭に三百人の本村の農民が襲撃し、田畑を掘返し、溜め池を毀ち、家まで壊した。

百姓の恐さを思い知らされる事件であるが、何でこんな暴挙に及んだのか。古文書にはないが揣摩するに、一つは水利である。野村の地形は北西に高く南東に低い。つまり奥野は本村の水上にあたる。下まで水が回らないかも知れないのである。水は農民の死活問題である。そして何より農民は変化を嫌うものである。今一つは村役の頭越しに事を運んだことである。つまり太兵衛は村の秩序を無視した。村役らにしてみれば許せぬ所業であったろう。本村側に同情の余地があるとすればこの二つであるが、それにしても野村の歴史あまりにも非道な出来事であった。

しかし太兵衛はくじけなかった。その不屈の精神には頭が下がった。再度江戸を訪れ、この暴挙を訴え出た。お上の調停で、以後本村との共同耕作ということになり飛び地という扱いを受けたが太兵衛としては本意だったろう。太兵衛の夢は潰え、不遇のうちにこの世を去ったようだが、私には信じ難い懐かしい男である。昔、野村の地にはこんな男がいたのである。私は今の若い人たちに、声高に叫ぶのではなく静かに庶幾する。

「新しき太兵衛よ、出でよ。」